## 調布の祭ばやし

祭ばやしが調布に伝えられたのは、幕末から明治の初期にかけてと推察されるが、確かな記録は見当たらない。以来、調布には幾組ものはやしがあったが、継承者がなく絶えてしまったところがあった。しかし、はやしを永く保存して行こうという一部熱心な提唱者がいて、昭和３１年に保存会を創出して今日に至っている。創立当時８連だったチームが、復活したものもあって、現在では全市域にわたり、子供チームを含め１４チームが活動している。そして、この古典芸能であり、郷土芸能であるはやしを保存し、後継者を育成しようと毎年大会を実施している。多くの神社では秋祭りの折に、はやしを演じ、境内に屋台をかけて行うところ、山車による巡行を主とするところがある。また、正月にはマグサと称して獅子舞を行なうはやし連もある。

## 調布の流派

祭ばやしの流派には、神田ばやし、葛西ばやし、目黒ばやし等の代表的なものの他に、船橋阿佐ヶ谷、佃、三つ目等、地名を冠して呼ばれるものが多い。調布で受け継いでいる流派は二つに大別することができる。その一つは『船橋ばやし』という世田谷の船橋方面から伝来したもので、飛田給、上石原、下石原、金子、深大寺、仙川、の各はやし連が継承している。もう一つは、小島、上布田、下布田、国領、上ヶ給、柴崎の各はやし連が受け継いでいる『下町ばやし』である。その演奏方法には大差はないが、各流派ともそれぞれリズムに特徴を持っている。

## はやしの起源

記録によると、はやしの起源は推古天皇のころといわれ、古い歴史を持っている。演奏法や舞い方が、年月の経過による変化、推移がみられ、また今日までいくたびかの盛衰もあったが、徳川時代には、再興して盛んに行われた。「はやし」はもともと『祭礼囃子』であり、村むらの繁栄と幸せを祈って神社に奉納するための大切な行事とされていた。現在のはやしは、その頃のものが受け継がれているものである。

## はやしの曲名

演奏される曲名は古来数種あって、その土地によってまちまちであったが、現在調布市で演奏する曲は、基本的には下記の順序で演奏される。

1　打込み：締太鼓の打ち始め
2　破矢（屋台）：はやしの中心ともいえる曲。悪魔祓いの曲でもある。
3　昇殿：ゆっくりしたテンポの曲。
4　鎌倉：静かな感じの曲。
5　国堅め：五穀豊穣などを祈願し、お祝いする曲。
6　師調目（しちょうめ）：にぎやかなテンポの曲。
7　破矢：破矢に代えて、おかめやひょっとこの入る印旛（にんば）が演奏されることがある。